

令和6年度 第4回

希望郷いわてモニターアンケート

# 文化芸術に関する意識調査

令和6年8月

岩手県文化スポーツ部文化振興課

# I アンケート調査の概要

## 1 調査課題名

文化芸術に関する意識調査

## 2 調査の目的

調査結果を、第4期岩手県文化芸術振興指針の策定及び本県の文化芸術振興施策の推進の参考としようとするもの。

### 【用語について】

この調査で「文化芸術」とは、芸術・芸能、伝統文化、生活文化、景観をいい、例示すると概ね以下のとおり。

分野	内容(例)
芸術・芸能	文学、音楽、美術、工芸、デザイン、写真、演劇、舞踊、メディア芸術(映画、漫画、アニメーション及びコンピュータ等を利用した芸術をいう。)その他の芸術及び歌唱その他の芸能(伝統芸能を除く。)
伝統文化	文化財、伝統芸能、地域固有の年中行事その他の伝統的な文化芸術
生活文化	茶道、華道、書道、方言、衣食住等に係る生活様式その他の生活に係る文化
景観	地域の歴史的な又は文化的な景観(の保全・活用)

## 3 調査内容

- (1) 文化芸術に対する親近度
- (2) 文化芸術鑑賞・活動の状況
- (3) 文化芸術鑑賞・活動における課題・支障
- (4) 今後行いたい文化芸術鑑賞・活動
- (5) 文化芸術鑑賞に関する情報の入手方法
- (6) 文化芸術活動への参加に関する情報の入手方法
- (7) 復興の絆を生かした文化芸術復興支援策
- (8) 世界遺産の魅力・情報の発信と普及について
- (9) 若者の文化芸術への参加
- (10) アール・ブリュットの認知状況
- (11) アール・ブリュットの推進方法
- (12) 学校部活動から地域クラブ活動への移行の取組の認知状況
- (13) 文化芸術への行政支援に関するニーズ
- (14) 本県の文化芸術にかかる将来像・理想像
- (15) 本県の文化芸術振興に必要なこと(自由意見)

## 4 調査期間

令和6年7月12日(金)～7月26日(金)

## 5 調査方法

調査紙郵送及びインターネット

## 6 調査対象

令和6, 7年度希望郷いわてモニター 200名

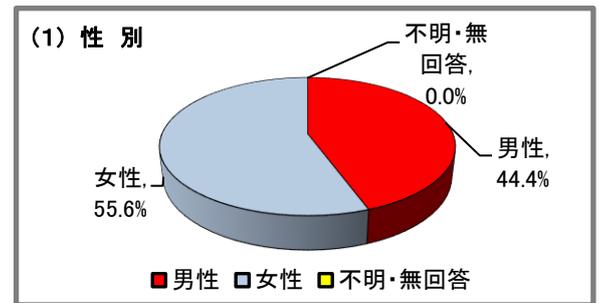
## 7 回答者数

160名(80.0%)

## 8 回答者内訳

### (1) 性別

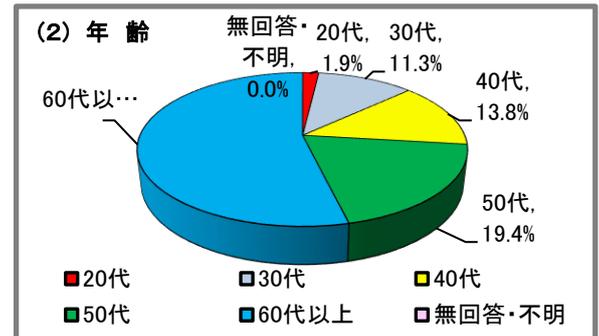
男性	71
女性	89
不明・無回答	0
<b>計</b>	<b>160</b>



令和6年9月

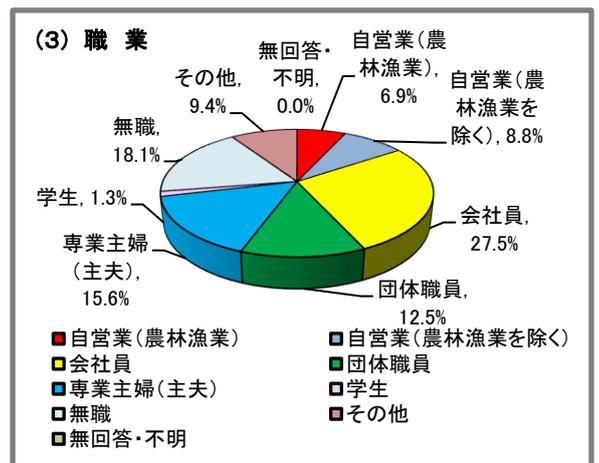
### (2) 年齢

	男性	女性	不明	合計
20代	1	2		3
30代	6	12		18
40代	12	10		22
50代	10	21		31
60代以上	42	44		86
無回答・不明	0	0		0
<b>計</b>	<b>71</b>	<b>89</b>	<b>0</b>	<b>160</b>



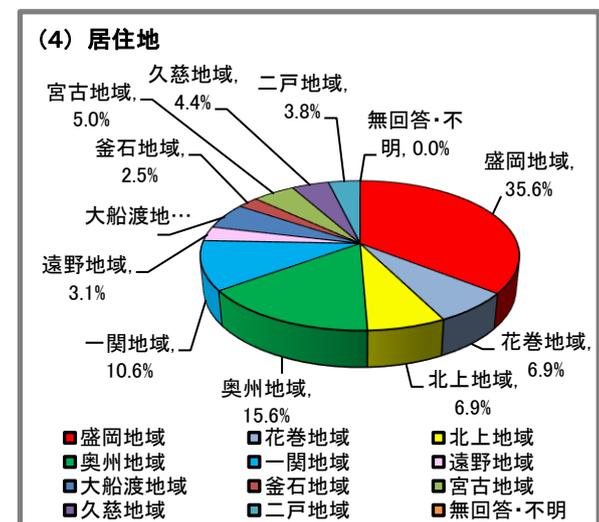
### (3) 職業

	男性	女性	不明	合計
自営業(農林漁業)	5	6		11
自営業(農林漁業を除く)	7	7		14
会社員	23	21		44
団体職員	11	9		20
専業主婦(主夫)	1	24		25
学生	0	2		2
無職	19	10		29
その他	5	10		15
無回答・不明	0	0		0
<b>計</b>	<b>71</b>	<b>89</b>	<b>0</b>	<b>160</b>



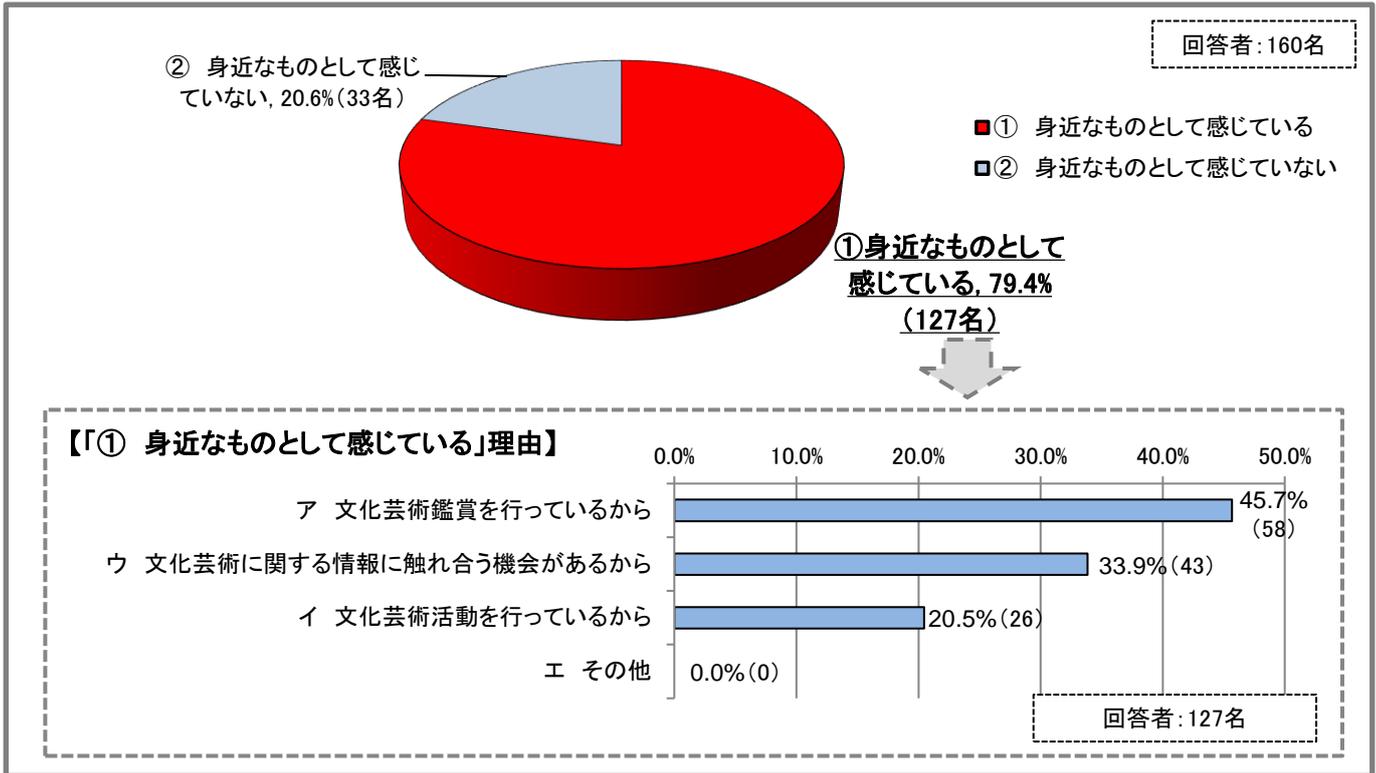
### (4) 居住地

	男性	女性	不明	合計
盛岡地域	22	35		57
花巻地域	6	5		11
北上地域	3	8		11
奥州地域	13	12		25
一関地域	11	6		17
遠野地域	2	3		5
大船渡地域	5	4		9
釜石地域	1	3		4
宮古地域	4	4		8
久慈地域	1	6		7
二戸地域	3	3		6
無回答・不明	0	0		0
<b>計</b>	<b>71</b>	<b>89</b>	<b>0</b>	<b>160</b>



## Ⅱ アンケート集計結果

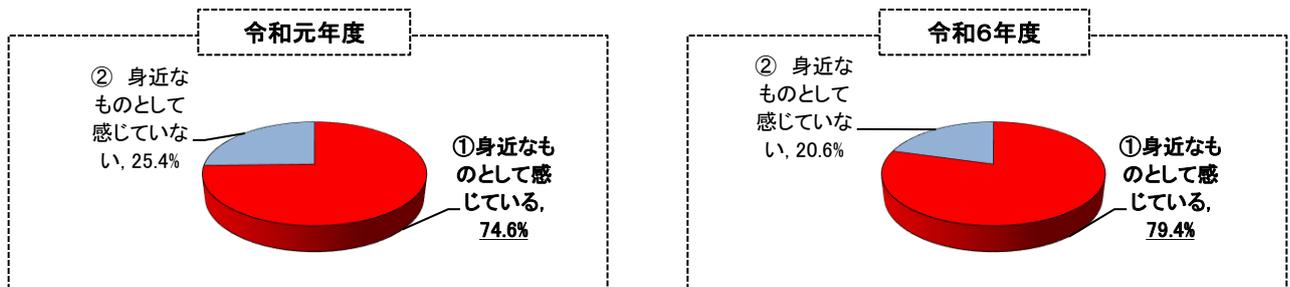
### 問1 文化や芸術を身近なものとして感じていますか。



79.4%の回答者が「文化芸術を身近なもの」と感じており、その理由としては「(文化芸術の)鑑賞を行っているから」が最も多い。

### <参考: 過去の調査結果との比較>

#### Q 文化や芸術を身近なものとして感じているか。



令和元年度と比較し、「身近なものと感じている」と回答した割合が、74.6%(R1)→79.4%(R6)と4.8%増加している。

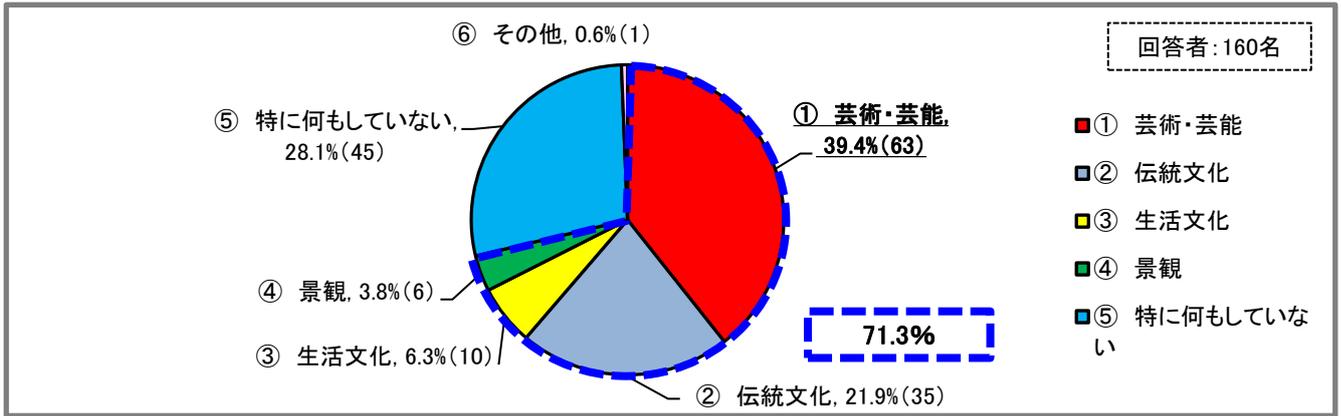
#### 【「① 身近なものとして感じている」理由】

選択肢	回答割合		増減	
	令和元年度 (順位)	令和6年度 (順位)	増減 (順位)	
ア 文化芸術鑑賞を行っているから	45.6% (1)	45.7% (1)	0.0%	+0
イ 文化芸術活動を行っているから	26.2% (2)	33.9% (2)	7.7%	+0
ウ 文化芸術に関する情報に触れ合う機会があるから	24.2% (3)	20.5% (3)	-3.7%	+0
エ その他	4.0% (4)	0.0% (4)	-4.0%	+0
不明・無回答	0.7% (5)	0.0% (4)	-0.7%	+1

「ア 文化芸術鑑賞を行っているから」の回答割合は、両年度において最も高い。

問2 ここ1年間で主に行った文化芸術鑑賞や文化芸術活動について（「(1) 分野」を選択肢から1つ選択し、「(2) 内容」について各自記入）

(1) 分野



71.3%の回答者が、ここ1年間に何らかの文化芸術鑑賞・活動を行っている。

(2) 内容

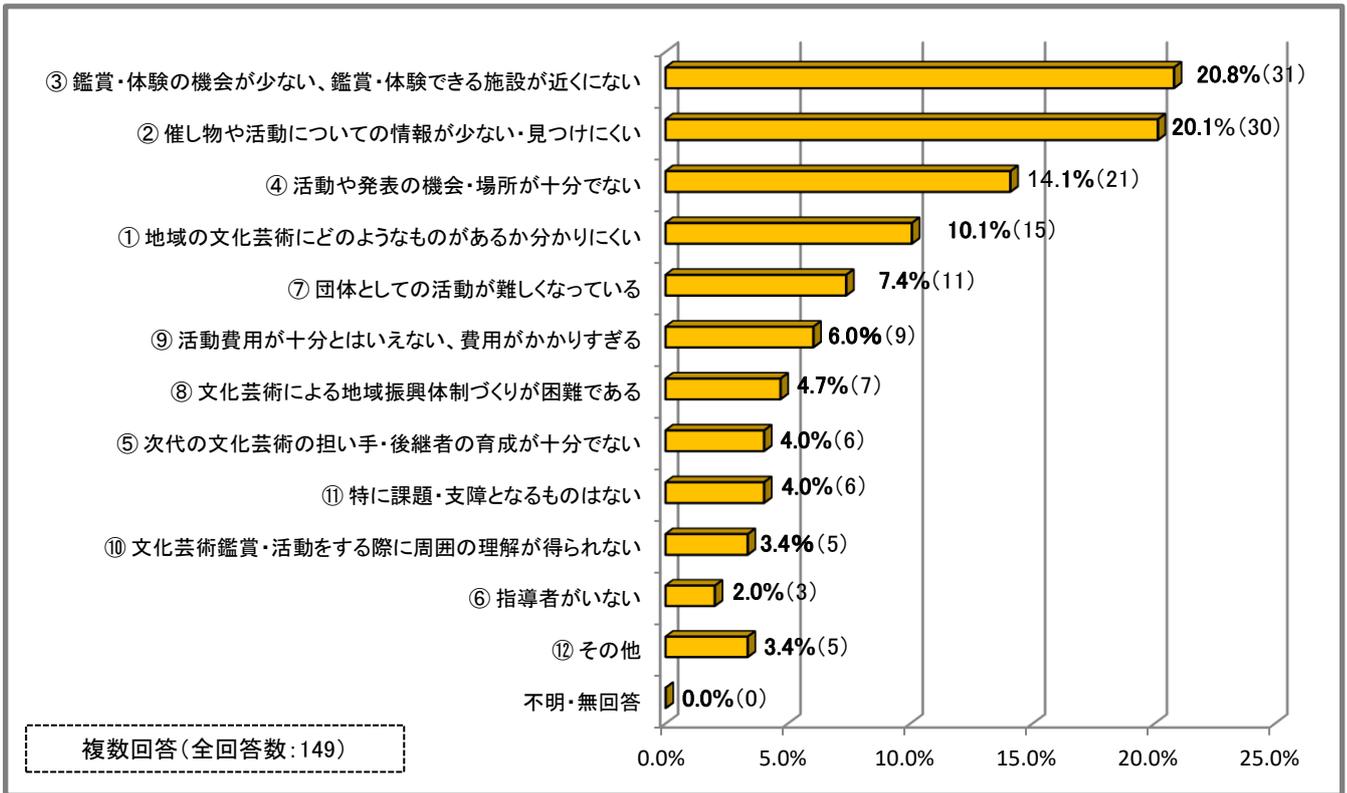
- 音楽鑑賞(すべてのジャンル、コンサート鑑賞等を含む)[19]
- 美術・絵画鑑賞(美術館見学なども含む)[11]
- 演劇・芝居鑑賞[10]
- 映画鑑賞[6]
- 音楽活動(演奏、作成等)[6]
- 茶道(活動)[4]
- 史跡・名勝・遺跡等の見学[3]、その他の芸術活動[3]、地域活動[3]、博物館の観覧[3]、舞踊鑑賞[3]、祭り・年中行事鑑賞[3]、民俗芸能への参加[3]
- 華道(活動)[2]、工芸品鑑賞[2]、様々な芸術芸能鑑賞[2]、伝統芸能鑑賞[2]、舞踊(活動)[2]、祭り・年中行事への参加[2]
- 工芸制作[1]、茶道鑑賞[1]、障がい者の文化活動[1]、食文化(活動)[1]、書道(活動)[1]、書道鑑賞[1]、建物鑑賞[1]、読書[1]、美術・絵画(作成等の活動)[1]、文学執筆(短歌・俳句含む)[1]、漫画鑑賞[1]、民俗芸能鑑賞[1]

※ 鑑賞・活動の区分が不明であるもの  
 民俗芸能[6]、写真[1]、書道[1]、祭り・年中行事[1]、メディア芸術[1]

文化芸術鑑賞については、音楽、美術・絵画、映画の鑑賞を行っている回答数が多く、次いで、民俗芸能、様々な芸術芸能、演劇・芝居、史跡・名勝・遺跡等の見学などとなっている。  
 文化芸術活動については、民俗芸能への参加を行っている回答数が最も多く、次いで、その他の芸術活動、音楽、書道などとなっている。

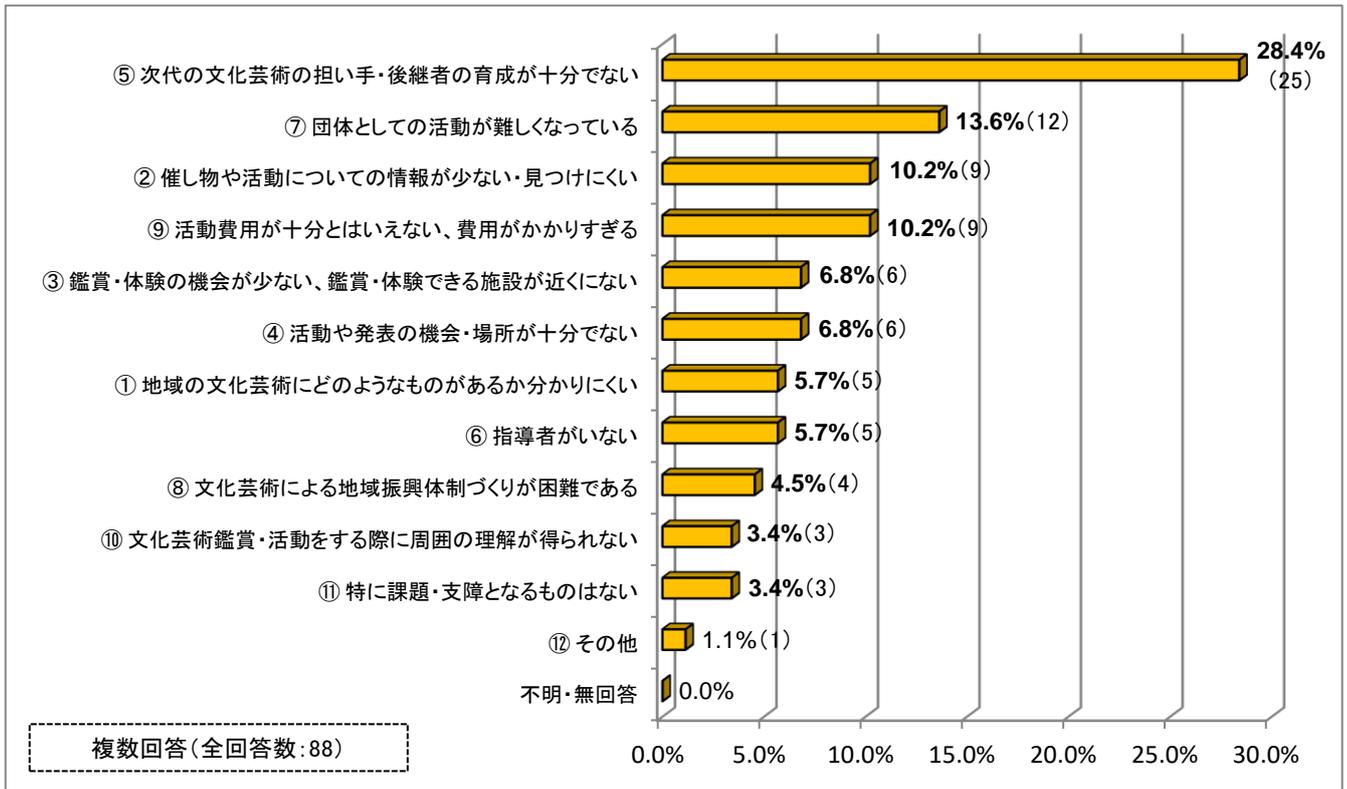
問3 問2で回答した文化芸術鑑賞や文化芸術活動において、現状どのような課題や支障があると感じていますか。(選択肢から3つまで選択)

(1) 芸術・芸能



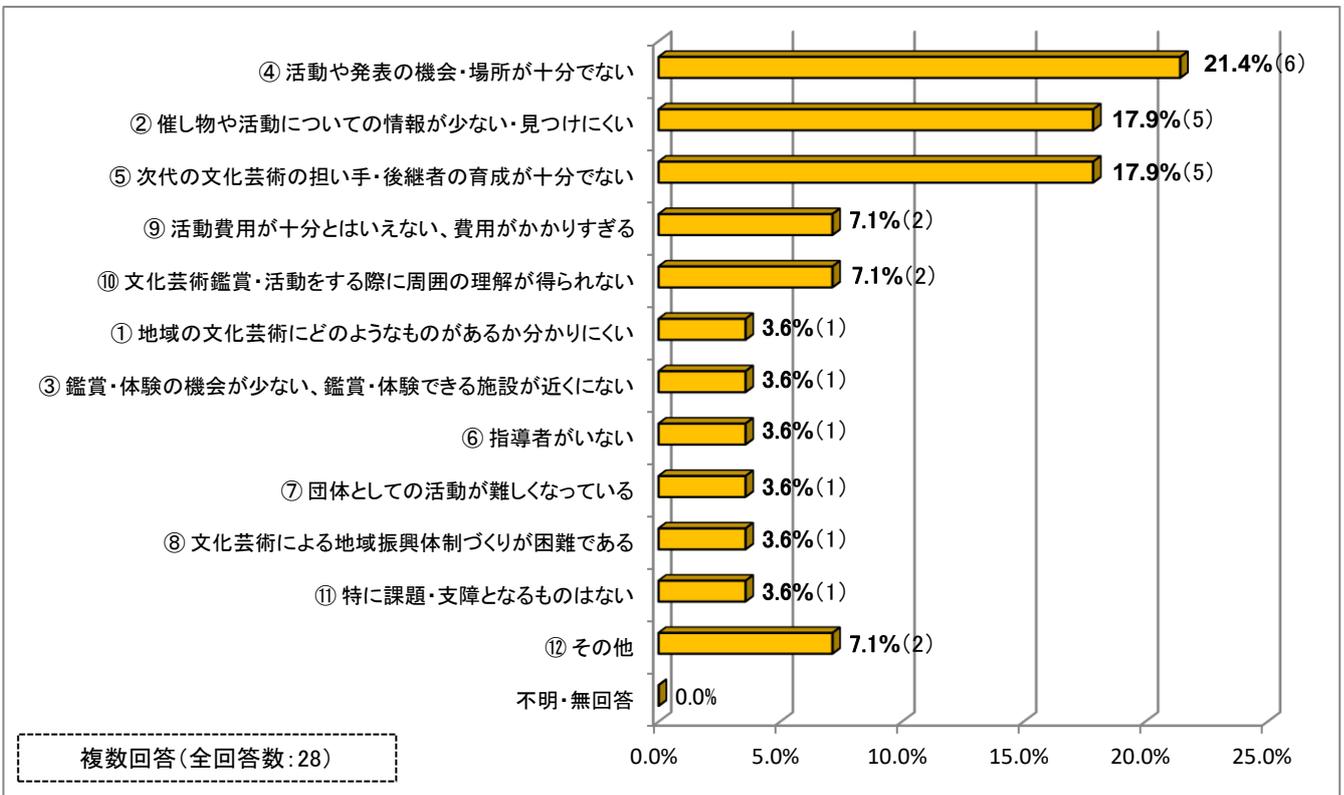
「(1) 芸術・芸能」においては、「③ 鑑賞・体験の機会が少ない、鑑賞・体験できる施設が近くにない」、「② 催し物や活動についての情報が少ない・見つけにくい」、「④ 活動や発表の機会・場所が十分でない」、「① 地域の文化芸術にどのようなものがあるか分かりにくい」など、文化芸術の情報を得る機会・文化芸術に触れる機会・活動や発表の機会や場所の少なさについて回答した割合が多くなっている。

(2) 伝統文化



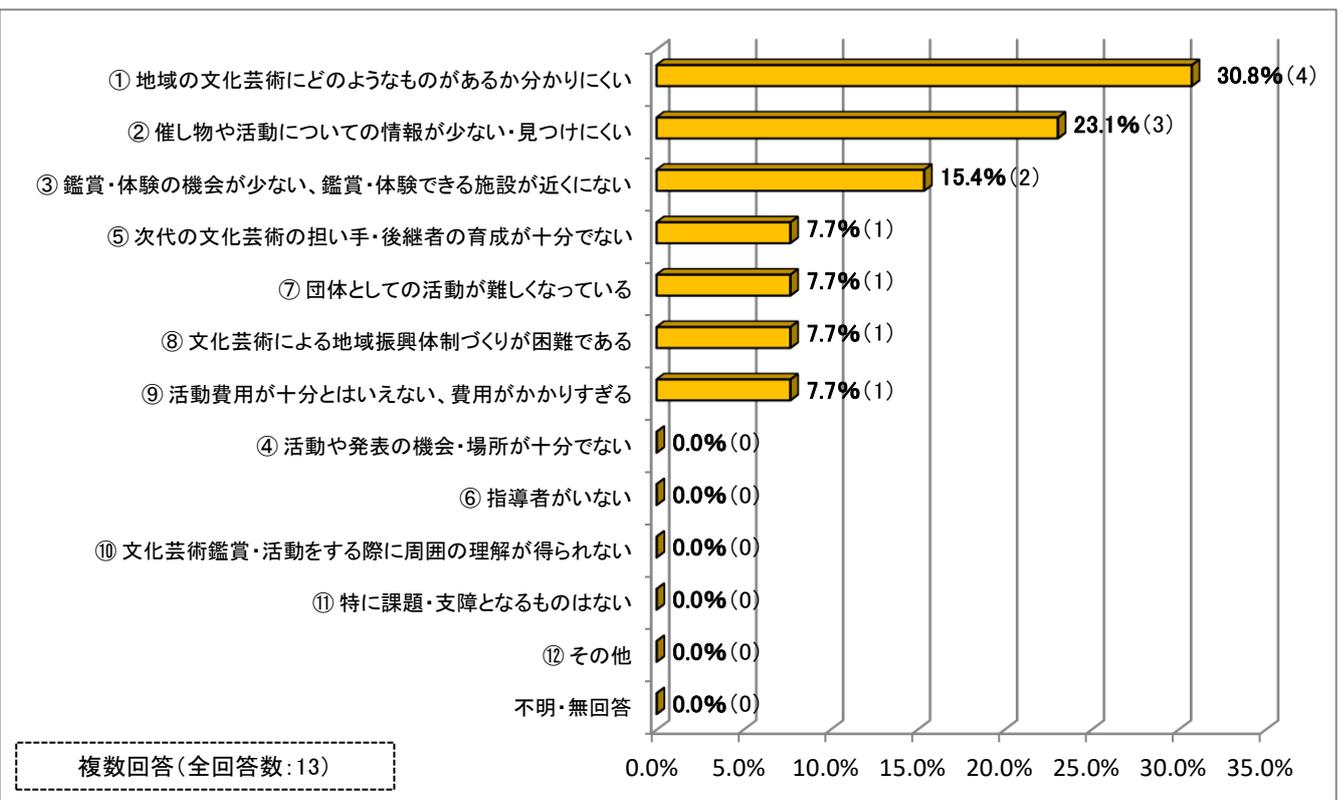
「(2) 伝統文化」においては、「⑤ 次代の文化芸術の担い手・後継者の育成が十分でない」ことが最も大きな支障となっている。(回答割合が2番目に高い「催し物や活動についての情報が少ない・見つけにくい」を大きく引き離している。)

### (3) 生活文化



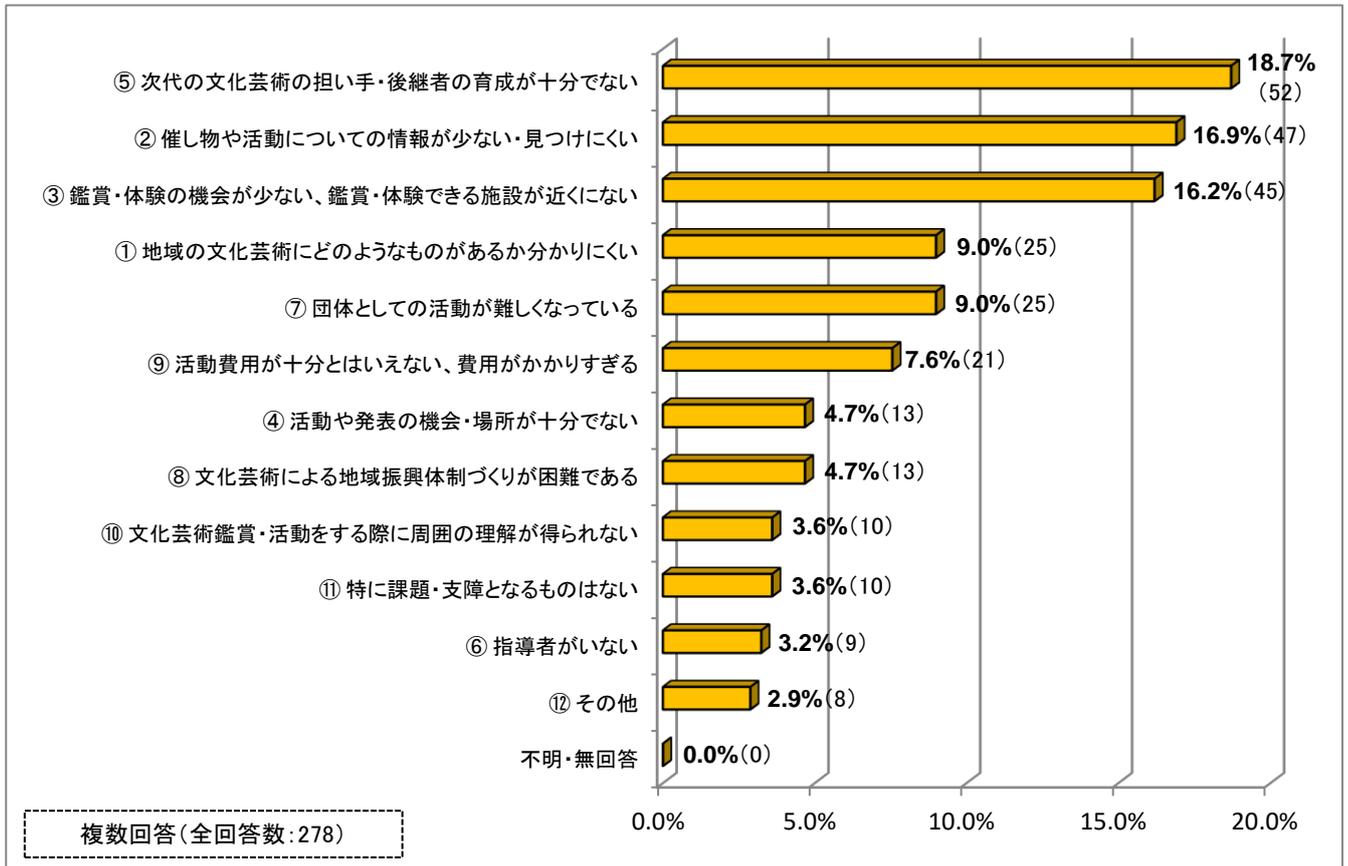
「(3) 生活文化」においては、「④ 活動や発表の機会・場所が十分でない」を挙げる回答数が最も多くなっており、次いで、「② 催し物や活動についての情報が少ない・見つけにくい」、「⑤ 次代の文化芸術の担い手・後継者の育成が十分でない」となっている。

### (4) 景観



「(4) 景観」においては、「① 地域の文化芸術にどのようなものがあるか分かりにくい」の回答数が最も多くなっており、次いで、「② 催し物や活動についての情報が少ない・見つけにくい」となっている。

【全分野(文化芸術全般) ※上記「(1) 芸術・芸能」～「(4) 景観」の合計】



文化芸術の「全分野」で見ると、「⑤ 次代の文化芸術の担い手・後継者の育成が十分でない」、「② 催し物や活動についての情報が少ない・見つけにくい」、「③ 鑑賞・体験の機会が少ない、鑑賞・体験できる施設が近くにない」といった回答が多くなっている。

＜参考：過去の調査結果との比較＞

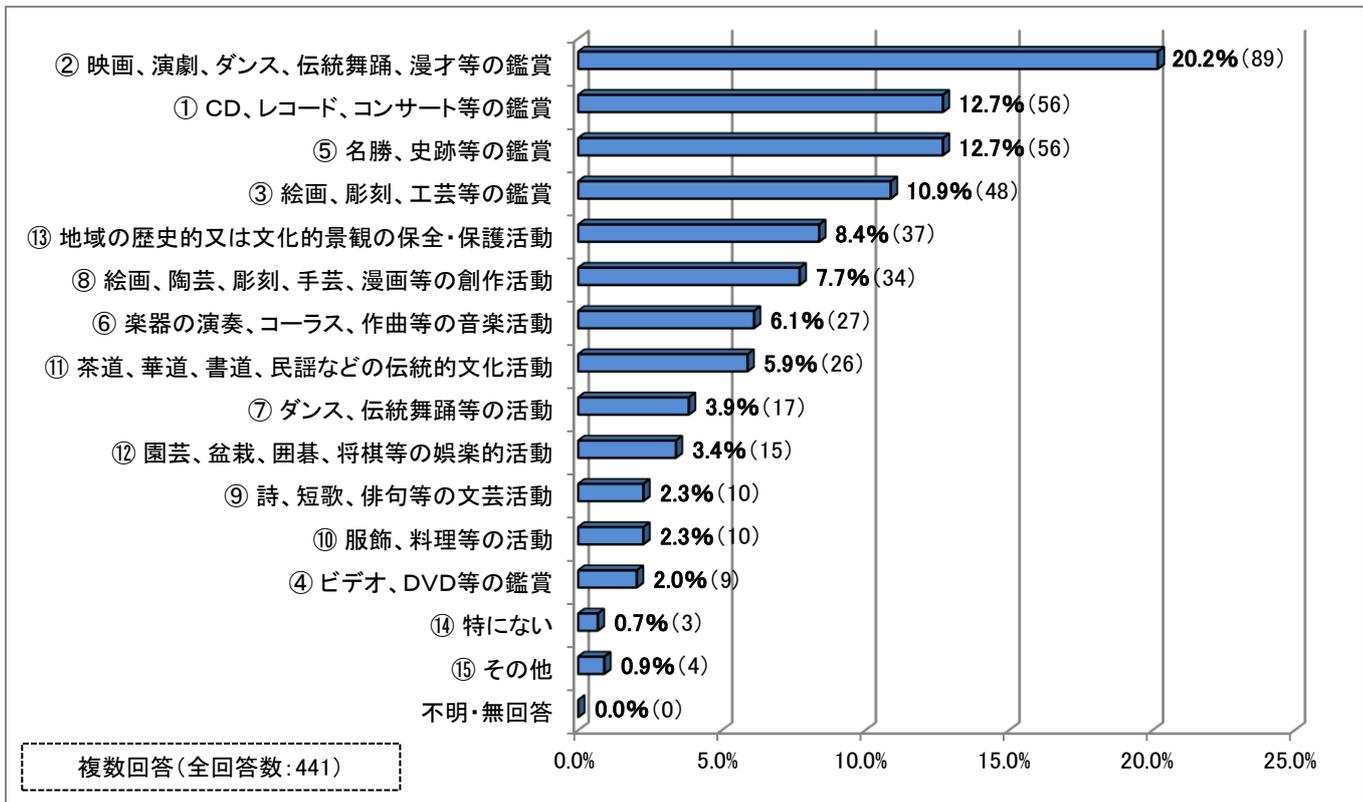
Q 【文化芸術全般】鑑賞や活動において、現状どのような課題や支障があると感じていますか。

選択肢	回答割合		増減	
	令和元年度 (順位)	令和6年度 (順位)	増減 (順位)	
① 地域の文化芸術にどのようなものがあるか分かりにくい	13.1% (3)	9.0% (4)	-4.1%	-1
② 催し物や活動についての情報が少ない・見つけにくい	13.9% (2)	16.9% (2)	3.0%	+0
③ 鑑賞・体験の機会が少ない、鑑賞・体験できる施設が近くにない	13.1% (3)	16.2% (3)	3.1%	+0
④ 活動や発表の機会・場所が十分でない	7.7% (7)	4.7% (7)	-3.0%	+0
⑤ 次代の文化芸術の担い手・後継者の育成が十分でない	16.8% (1)	18.7% (1)	1.9%	+0
⑥ 指導者がいない	4.0% (9)	3.2% (11)	-0.8%	-2
⑦ 団体としての活動が難しくなっている	8.0% (6)	9.0% (4)	1.0%	+2
⑧ 文化芸術による地域振興体制づくりが困難である	4.8% (8)	4.7% (7)	-0.1%	+1
⑨ 活動費用が十分とはいえない、費用がかかりすぎる	9.9% (5)	7.6% (6)	-2.3%	-1
⑩ 文化芸術鑑賞・活動をする際に周囲の理解が得られない	3.1% (10)	3.6% (9)	0.5%	+1
⑪ 特に課題・支障となるものはない	2.8% (11)	3.6% (9)	0.8%	+2
⑫ その他	2.0% (12)	2.9% (12)	0.9%	+0
不明・無回答	0.9% (13)	0.0% (13)	-0.9%	+0

注 網掛けの数値は、令和元年度・令和6年度それぞれの年度における回答割合が、上位1位から3位までの選択肢であること。

- 「次代の担い手・後継者の育成が十分でない」ことが大きな支障となっている。
- 次に、「情報の少なさ・見つけにくさ」や「鑑賞・活動の機会の少なさ」が回答割合が高く、令和元年度とから上位の順位に変動はない。

問4 今後行ってみたい文化芸術鑑賞や文化芸術活動について（選択肢から3つまで選択）



問2の「ここ1年間で主に行った文化芸術鑑賞や文化芸術活動について」の回答と同様、音楽・映画・演劇などの鑑賞に関する回答割合が特に高くなっている。

<参考：過去の調査結果との比較>

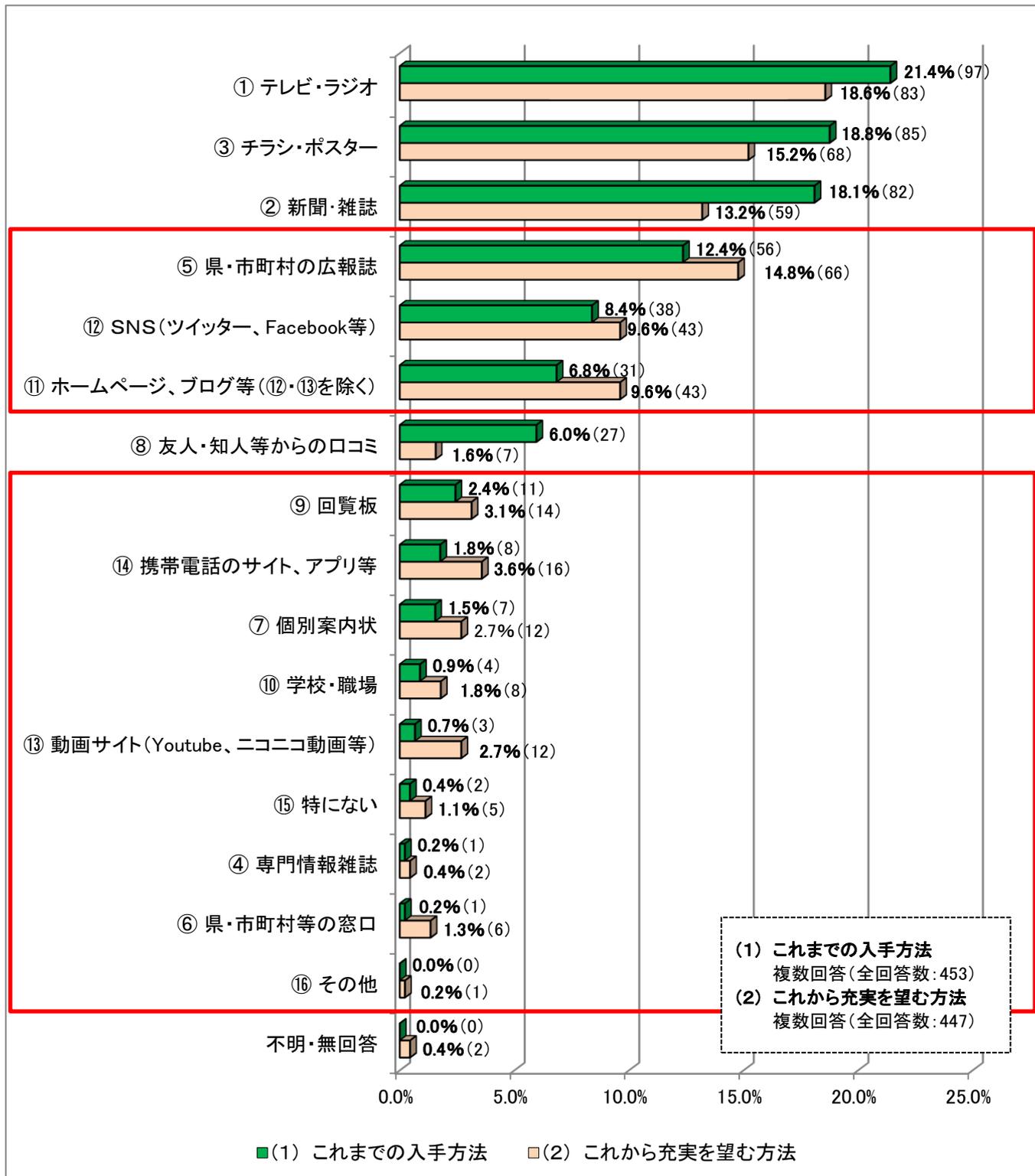
Q 今後行ってみたい文化芸術鑑賞や文化芸術活動について

選択肢	回答割合		増減	
	令和元年度 (順位)	令和6年度 (順位)	増減 (順位)	
① CD、レコード、コンサート等の鑑賞	15.7% (2)	12.7% (2)	-3.0%	+0
② 映画、演劇、ダンス、伝統舞踊、漫才等の鑑賞	18.6% (1)	20.2% (1)	1.6%	+0
③ 絵画、彫刻、工芸等の鑑賞	9.5% (5)	10.9% (4)	1.4%	+1
④ ビデオ、DVD等の鑑賞	3.9% (9)	2.0% (13)	-1.9%	-4
⑤ 名勝、史跡等の鑑賞	12.0% (3)	12.7% (2)	0.7%	+1
⑥ 楽器の演奏、コーラス、作曲等の音楽活動	5.0% (7)	6.1% (7)	1.1%	+0
⑦ ダンス、伝統舞踊等の活動	4.3% (8)	3.9% (9)	-0.4%	-1
⑧ 絵画、陶芸、彫刻、手芸、漫画等の創作活動	6.8% (6)	7.7% (6)	0.9%	+0
⑨ 詩、短歌、俳句等の文芸活動	2.5% (13)	2.3% (11)	-0.2%	+2
⑩ 服飾、料理等の活動	3.0% (12)	2.3% (11)	-0.7%	+1
⑪ 茶道、華道、書道、民謡などの伝統的文化活動	3.6% (11)	5.9% (8)	2.3%	+3
⑫ 園芸、盆栽、囲碁、将棋等の娯楽的活動	3.8% (10)	3.4% (10)	-0.4%	+0
⑬ 地域の歴史的又は文化的景観の保全・保護活動	10.0% (4)	8.4% (5)	-1.6%	-1
⑭ 特にない	0.5% (15)	0.7% (15)	0.2%	+0
⑮ その他	0.9% (14)	0.9% (14)	0.0%	+0
不明・無回答	0.0% (16)	0.0% (16)	0.0%	+0

注 網掛けの数値は、令和元年度・令和6年度それぞれの年度における回答割合が、上位1位から3位までの選択肢であること。

- 「④ ビデオ、DVD等の鑑賞」「⑪ 茶道、華道、書道、民謡などの伝統的文化活動」以外、順位の増減にあまり変化がない。
- 令和元年度・令和6年度においても、「② 映画、演劇、ダンス、伝統舞踊、漫才等の鑑賞」、「① CD、レコード、コンサート等の鑑賞」及び「⑤ 名勝、史跡等の鑑賞」が上位3項目となっている。

問5 文化芸術鑑賞(例:コンサートホール・劇場・映画館・美術館・博物館等での公演や展示、各種芸術祭の公演などの鑑賞に関するもの)に関する情報をどのようなものから入手していますか。(1)これまでの入手方法と(2)これから充実を望む方法について、選択肢から3つまで選択

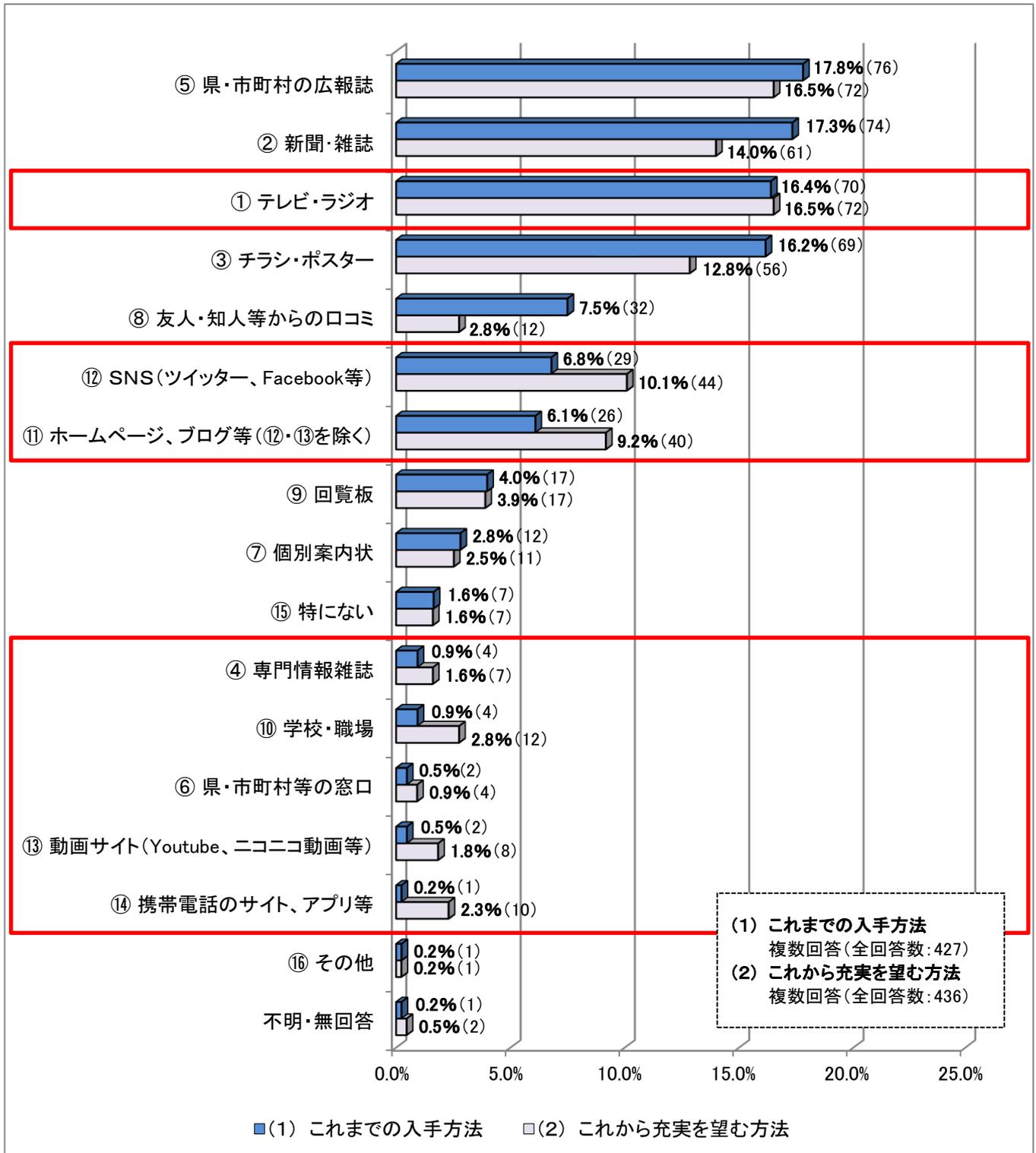


注 四角囲みの部分は、「(1)これまでの入手方法」よりも「(2)これから充実を望む方法」の回答割合が高い項目であること。

○ 「(1)これまでの入手方法」及び「(2)これから充実を望む方法」の両方において、「① テレビ・ラジオ」が最も回答割合が高い項目となっており、若干の順位の差はあるが「③ チラシ・ポスター」、「② 新聞・雑誌」、「⑤ 県・市町村の広報誌」の3項目も同様に回答割合が高くなっている。

○ 「⑤ 県・市町村の広報誌」や、「⑫ SNS」等のインターネット関連項目、「⑪ ホームページ、ブログ等」は、「(1)これまでの入手方法」よりも「(2)これから充実を望む方法」の回答割合が高くなっており、今後の充実を望む期待値が高いことが分かる。

問6 文化芸術活動への参加(例:文化芸術に係る習い事・創作活動・サークル等への参加、地域の芸能や祭りへの参加、文化財・景観等の保護活動への参加など)に関する情報をどのようなものから入手していますか。(1)これまでの入手方法と(2)これから充実を望む方法について、選択肢から3つまで選択

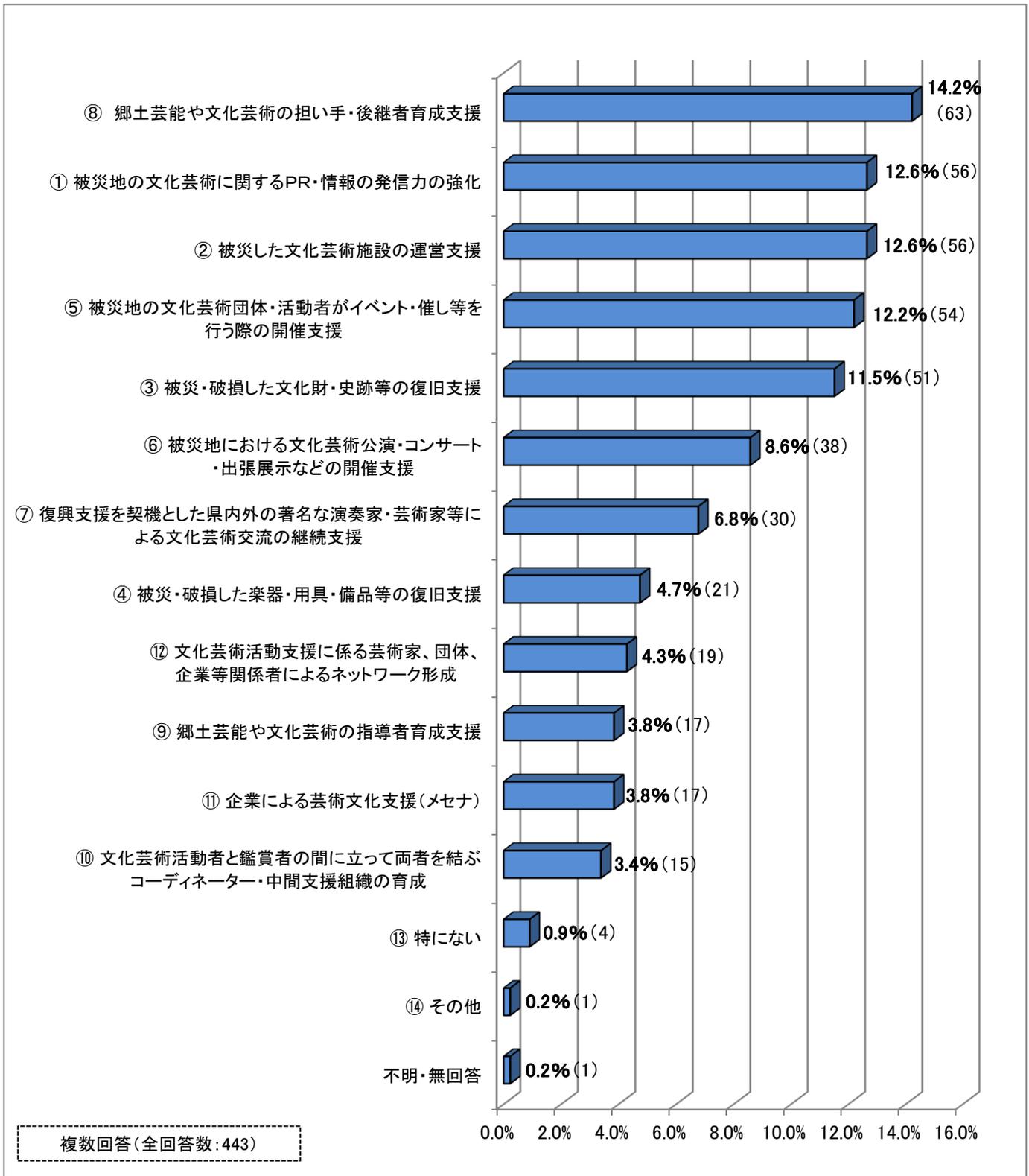


注 四角囲みの部分は、「(1)これまでの入手方法」よりも「(2)これから充実を望む方法」の回答割合が高い項目であること。

○ 「(1)これまでの入手方法」及び「(2)これから充実を望む方法」の両方において、「⑤ 県・市町村の広報誌」、「② 新聞・雑誌」、「① テレビ・ラジオ」、「③ チラシ・ポスター」が回答割合が高くなっている。

○ 「⑪ ホームページ、ブログ等」や「⑫ SNS」等のインターネット関連項目は、「(1)これまでの入手方法」よりも「(2)これから充実を望む方法」の回答割合が特に高くなっており、今後の充実を望む期待値が高いことが分かる。

問7 平成23年3月の東日本大震災津波からの復興の先を見据えた被災地の文化芸術復興支援施策について、どのような取組が必要であると思いますか。（選択肢から3つまで選択）

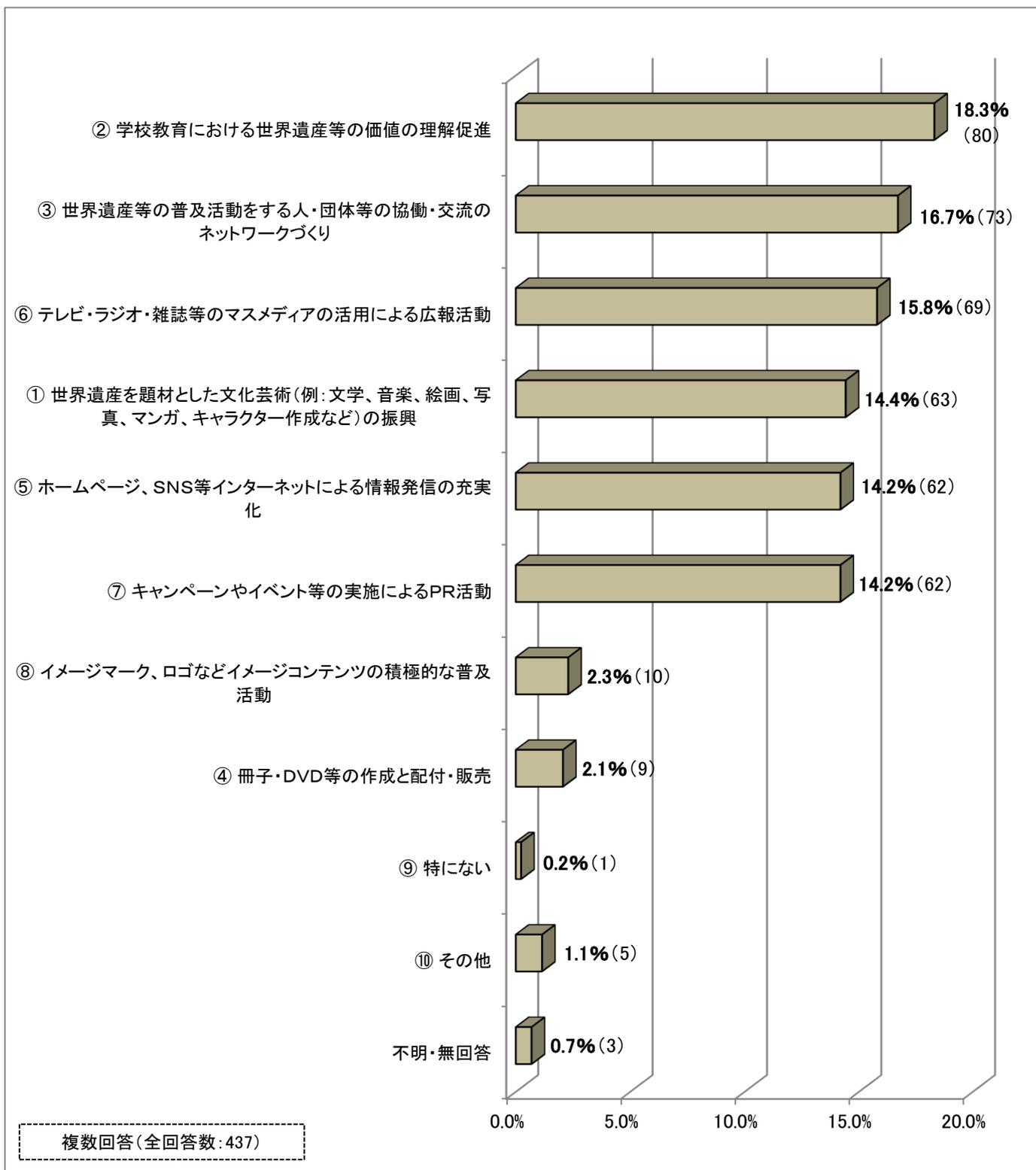


「⑧ 郷土芸能や文化芸術の担い手・後継者育成支援」が最も高い回答割合となっているものの、

- ・ 2位: 「① 被災地の文化芸術に関するPR・情報の発信力の強化」
- ・ 3位: 「② 被災した文化芸術施設の運営支援」
- ・ 4位: 「⑤ 被災地の文化芸術団体・活動者がイベント・催し等を行う際の開催支援」
- ・ 5位: 「③ 被災・破損した文化財・史跡等の復旧支援」

と1位から5位までの項目との回答割合の差はあまり大きくないことから、後継者の育成、情報発信の強化、文化施設の運営やイベントの開催支援、文化財等の復旧などの施策を総合的に行うことが望まれていることが分かる。

問8 平成23年に「平泉の文化遺産」、平成27年に「明治日本の産業革命遺産(橋野鉄鉱山)」令和3年に「北海道・北東北の縄文遺跡群(御所野遺跡)」がユネスコの世界遺産に登録されましたが、今後さらに岩手県の世界遺産等の魅力や情報を発信・普及していくためにはどのような取組が必要であると思いますか。(選択肢から3つまで選択)

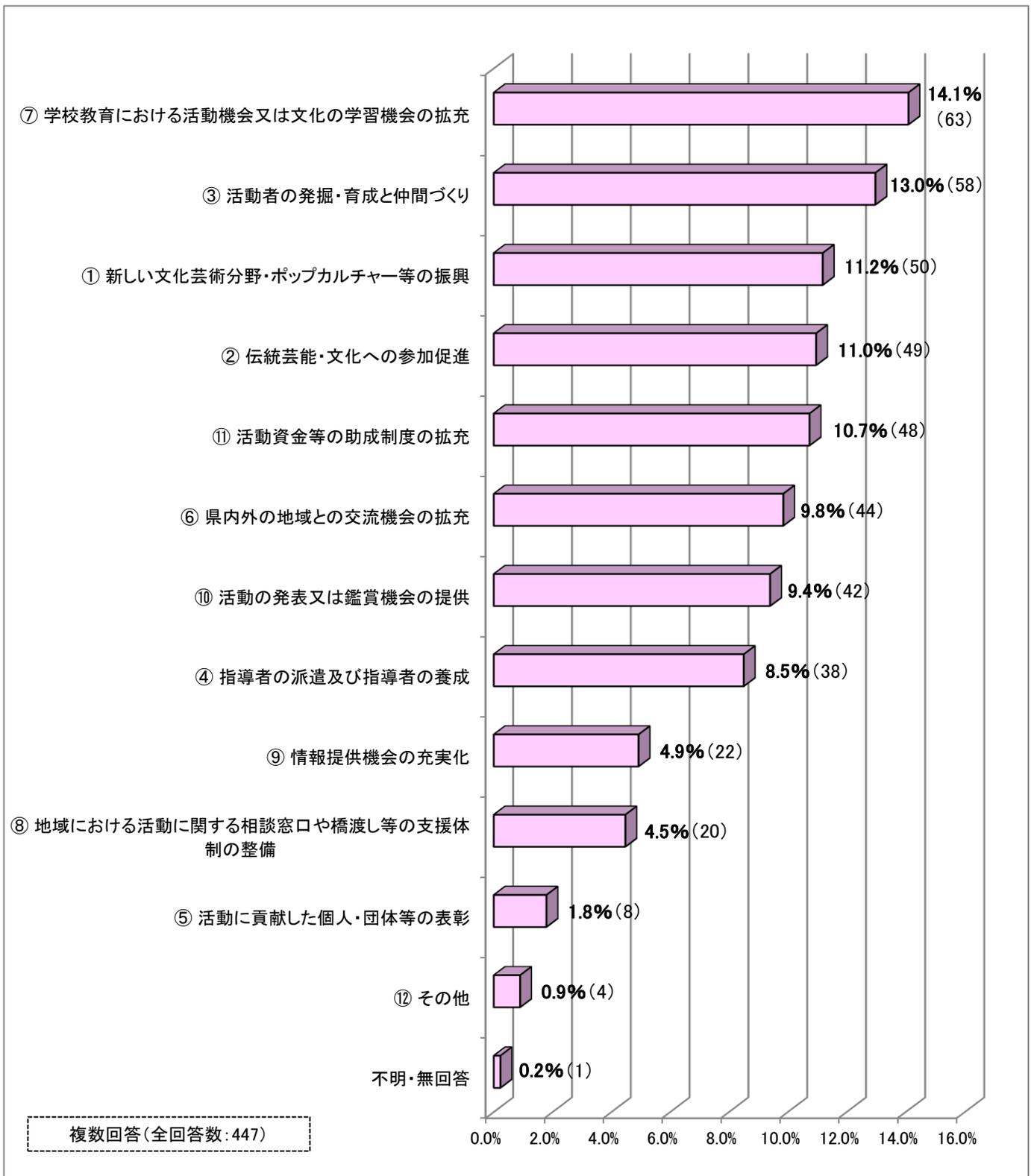


「② 学校教育における世界遺産等の価値の理解促進」が最も高い回答割合となっているものの、

- ・ 2位: 「③ 世界遺産等の普及活動をする人・団体等の協働・交流のネットワークづくり」
- ・ 3位: 「⑥ テレビ・ラジオ・雑誌等のマスメディアの活用による広報活動」
- ・ 4位: 「① 世界遺産を題材とした文化芸術(例:文学、音楽、絵画、写真、マンガ、キャラクター作成など)の振興」
- ・ 5位: 「⑤ ホームページ、SNS等インターネットによる情報発信の充実化」
- 「⑦ キャンペーンやイベント等の実施によるPR活動」

と1位から5位までの項目との回答割合の差はあまり大きくないことから、世界遺産等の価値の理解促進、普及活動者のネットワークづくり、情報発信・PR活動への支援などの施策を総合的に行うことが望まれていることが分かる。

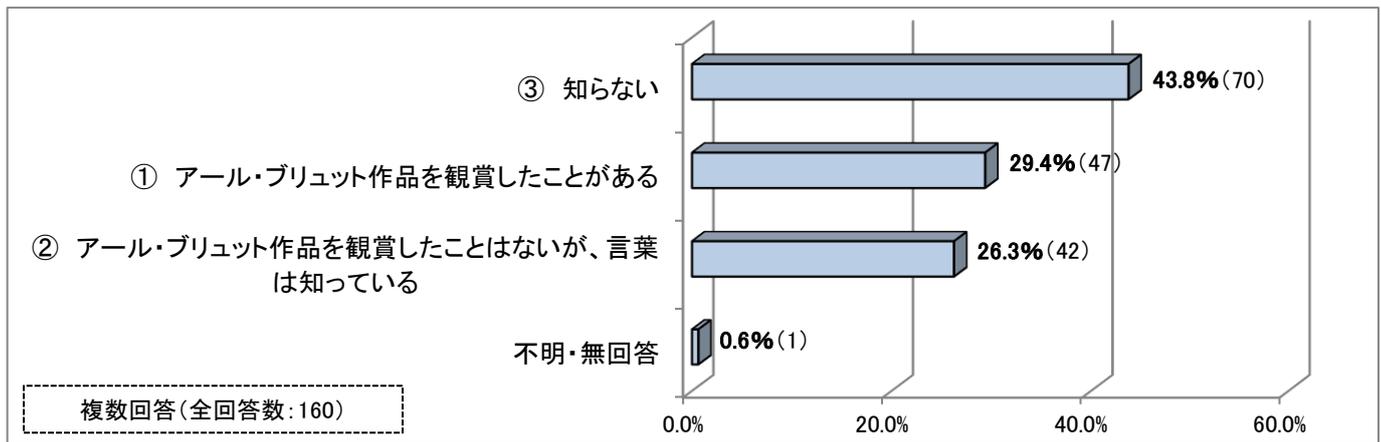
問9 今後、若者がより積極的に文化芸術活動に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。  
(選択肢から3つまで選択)



○ 回答割合の多かった上位2つの項目は、「⑦ 学校教育における活動機会又は文化の学習機会の拡充」、「③ 活動者の発掘・育成と仲間づくり」となっており、このことから、学校教育において活動・学習の機会を増やしつつ、文化活動を行う若者たちの育成や場づくりのための取組が多く望まれていることが分かる。

○ 一方、回答割合3位の「① 新しい文化芸術分野・ポップカルチャー等の振興」から8位の「④ 指導者の派遣及び指導者の養成」までも回答割合の差はあまり大きくないことから、総合的な文化芸術への若者参加の取組が必要であることが分かる。

問10 伝統や流行・教育などに左右されず、自身の内側からわきあがる衝動のままに表現した芸術で、障がいのある人・子ども・素人芸術家らの作品を「アール・ブリュット」と言いますが、このアール・ブリュットのことを知っていますか。



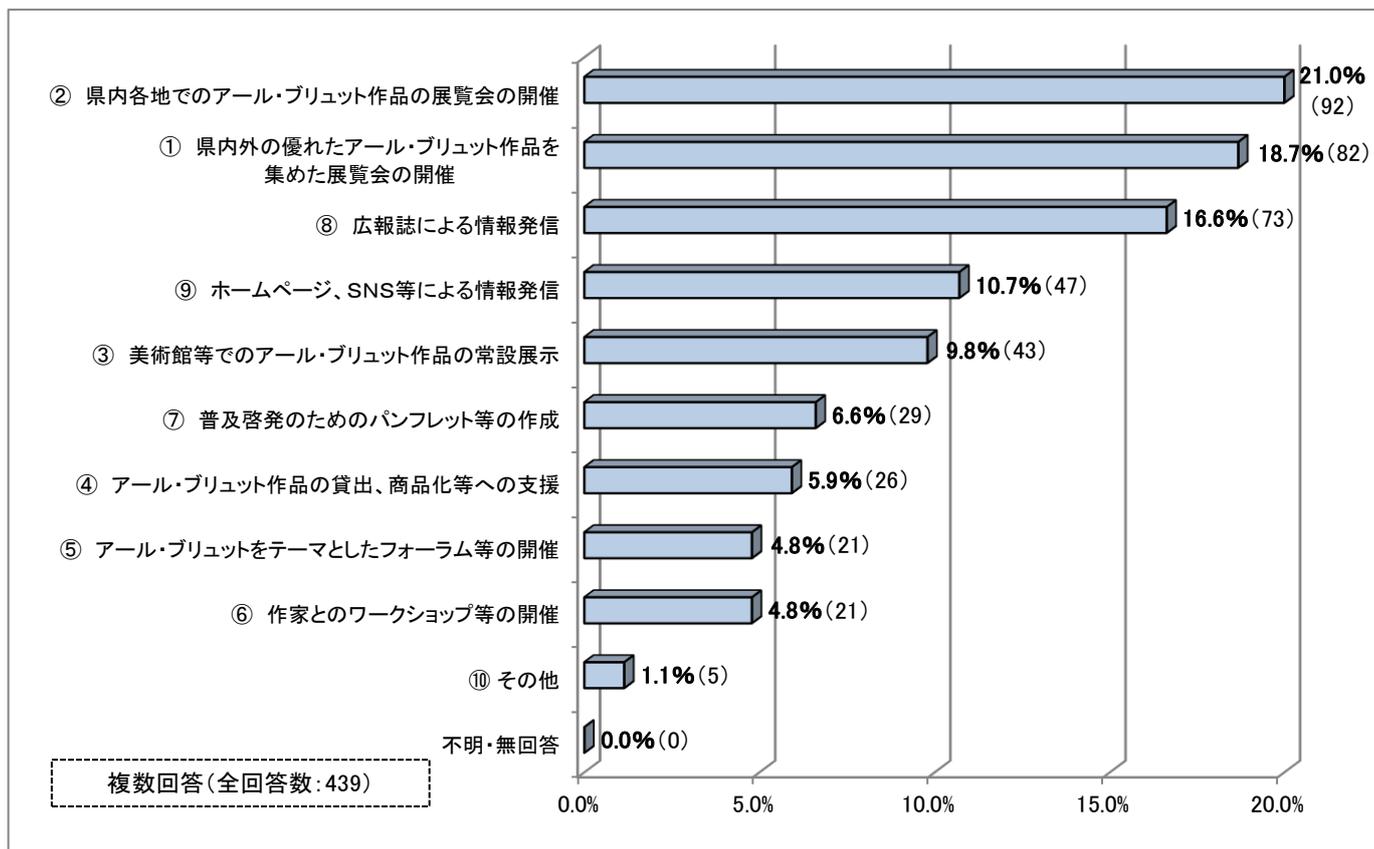
<参考：過去の調査結果との比較>

Q アール・ブリュットについて

選択肢	回答割合		増減	
	令和元年度 (順位)	令和6年度 (順位)	増減 (順位)	
① アール・ブリュット作品を観賞したことがある	19.9% (2)	29.4% (2)	9.5%	+0
② アール・ブリュット作品を観賞したことはないが、言葉は知っている	11.9% (3)	26.3% (3)	14.4%	+0
③ 知らない	67.2% (1)	43.8% (1)	-23.5%	+0
不明・無回答	1.0% (4)	0.6% (2)	-0.4%	+2

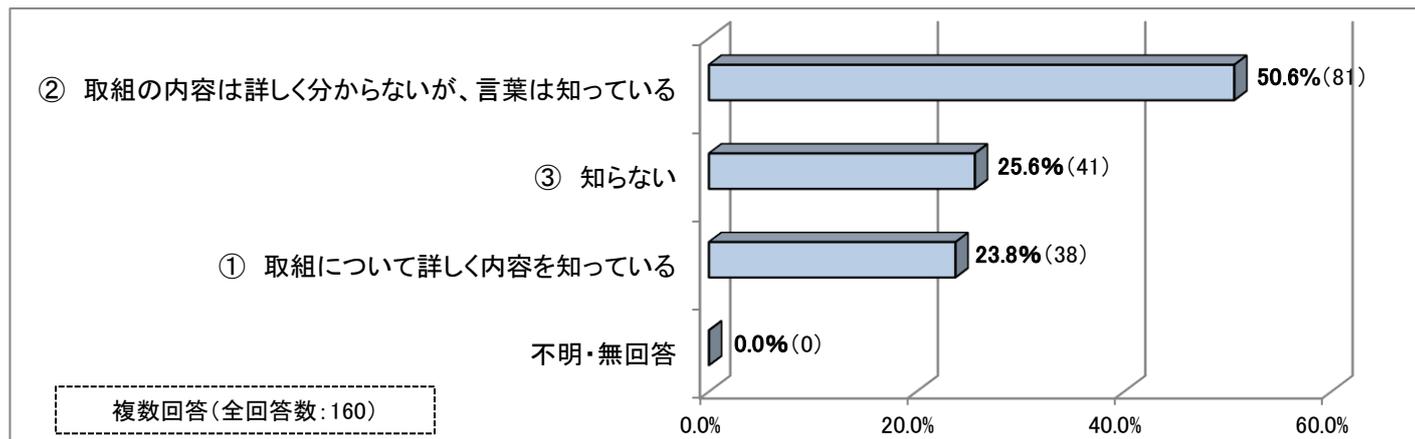
○ 「③ 知らない」の回答割合が多くなっており、現状では、アール・ブリュットの認知度は高いとはいえないことが分かるが、令和元年度と令和6年度の調査を比較すると、「③ 知らない」の回答割合が大幅に減少しており、アール・ブリュットの認知度は高まっていることが分かる。

問11 岩手県では、アール・ブリュットを始めとした障がい者の文化芸術活動の推進に取り組んでいます。県民のアール・ブリュットへの関心を高めるためにはどのような方法が有効だと考えますか。(選択肢から3つまで選択)



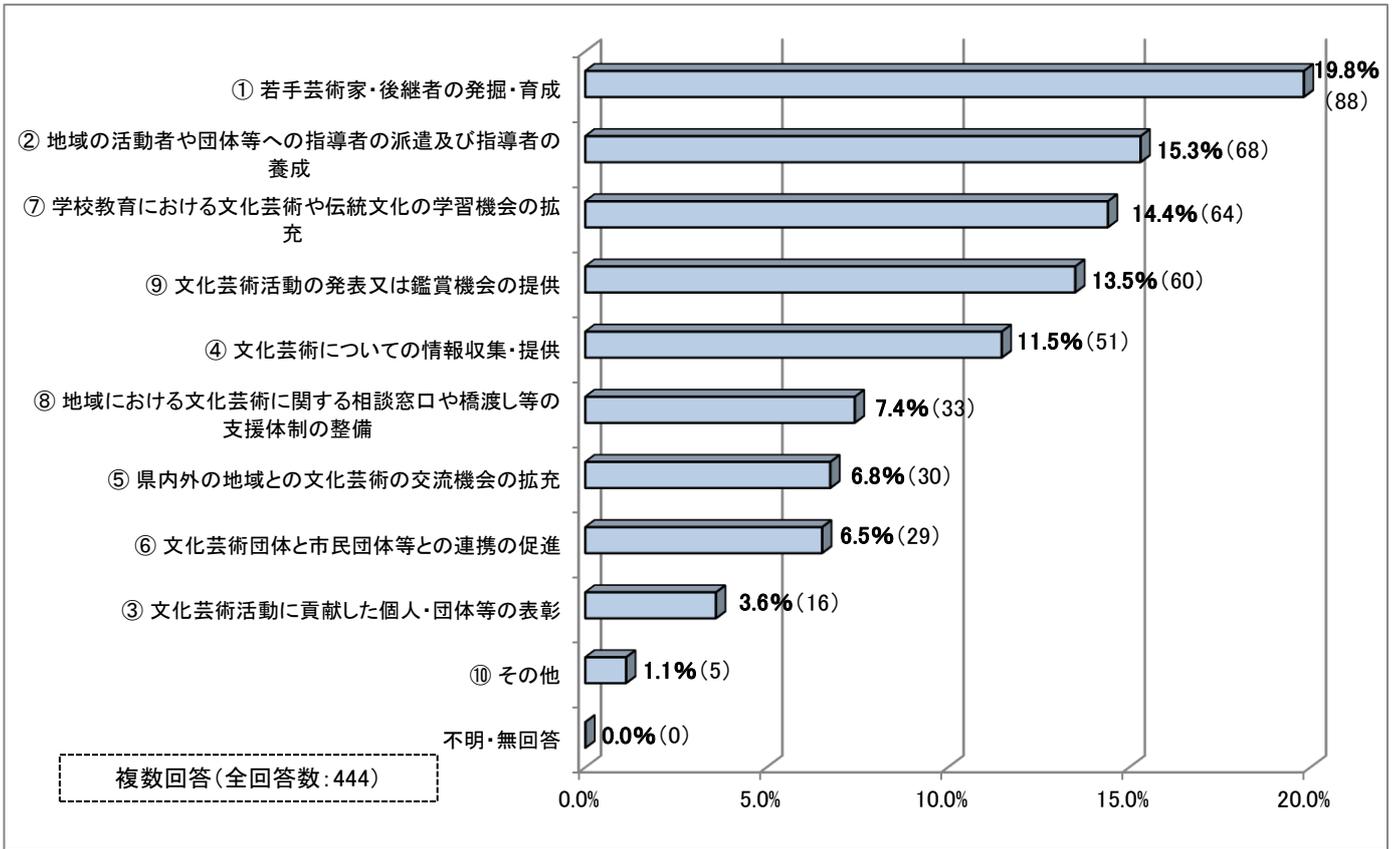
○ 「② 県内各地でのアール・ブリュット作品の展覧会の開催」、「① 県内外の優れたアール・ブリュット作品を集めた展覧会の開催」、「⑧ 広報誌による情報発信」の回答割合が多くなっており、鑑賞機会の充実と情報発信が望まれていることが分かる。

問12 現在、教職員の負担軽減や少子化により活動が困難になった文化部活動の継続などを目的として学校部活動から地域クラブ活動への移行の取組が進められていますが、この取組について知っていますか。



○ 「② 取組の内容は詳しく分からないが、言葉は知っている」の回答割合が多くなっており、学校部活動から地域クラブ活動への移行について、耳にする機会はあるが、取組の内容が浸透していないことが分かる。

問13 文化芸術の担い手である県民に対する行政のサポートとして、どのようなものが大切だと考えますか。(選択肢から3つまで選択)



「① 若手芸術家・後継者の発掘・育成」、「② 地域の活動者や団体等への指導者の派遣及び指導者の養成」、「⑦ 学校教育における文化芸術や伝統文化の学習機会の拡充」の回答割合が多くなっており、「活動者・後継者(ひと)の育成」と「学校教育における文化芸術学習等の機会充実」が望まれている。

<参考: 過去の調査結果との比較>

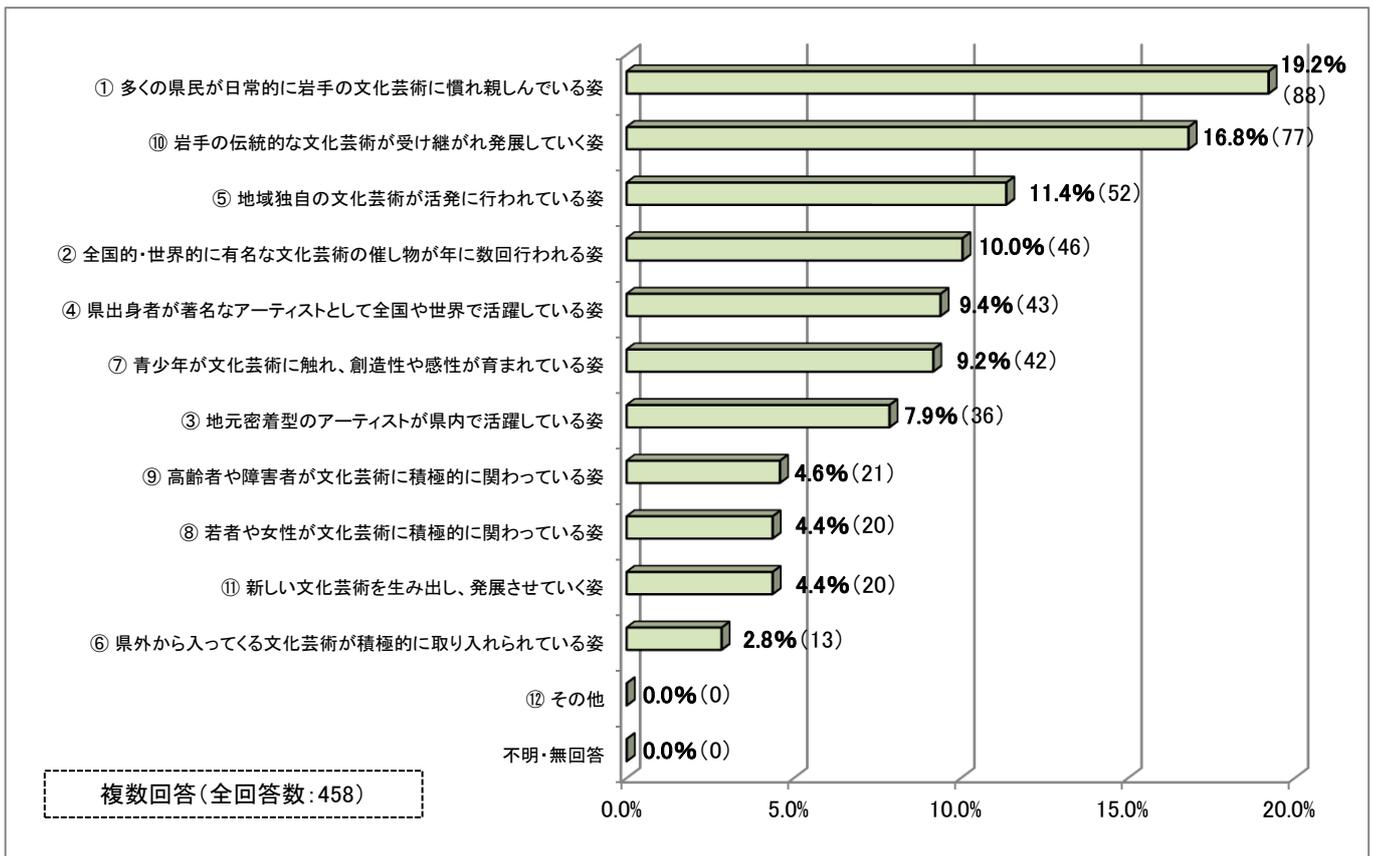
Q 文化芸術の担い手である県民に対する行政のサポートとして、どのようなものが大切だと考えますか。

選択肢	回答割合		増減	
	令和元年度 (順位)	令和6年度 (順位)	増減 (順位)	
① 若手芸術家・後継者の発掘・育成	22.0% (1)	19.8% (1)	-2.2%	+0
② 地域の活動者や団体等への指導者の派遣及び指導者の養成	13.3% (3)	15.3% (2)	2.0%	+1
③ 文化芸術活動に貢献した個人・団体等の表彰	3.8% (9)	3.6% (9)	-0.2%	+0
④ 文化芸術についての情報収集・提供	11.9% (4)	11.5% (5)	-0.4%	-1
⑤ 県内外の地域との文化芸術の交流機会の拡充	9.0% (6)	6.8% (7)	-2.2%	-1
⑥ 文化芸術団体と市民団体等との連携の促進	5.2% (8)	6.5% (8)	1.3%	+0
⑦ 学校教育における文化芸術や伝統文化の学習機会の拡充	16.0% (2)	14.4% (3)	-1.6%	-1
⑧ 地域における文化芸術に関する相談窓口や橋渡し等の支援体制の整備	6.5% (7)	7.4% (6)	0.9%	+1
⑨ 文化芸術活動の発表又は鑑賞機会の提供	11.0% (5)	13.5% (4)	2.5%	+1
⑩ その他	1.3% (10)	1.1% (10)	-0.2%	+0
不明・無回答	0.0% (11)	0.0% (11)	0.0%	+0

注 網掛けの数値は、令和元年度・令和6年度それぞれの年度における回答割合が、上位1位から3位までの選択肢であること。

令和元年度・令和6年度の両年度において、上位3つの項目は同じ内容となっており、「活動者・後継者(ひと)の育成」、「指導者の派遣及び養成」、「学校教育における文化芸術学習等の機会充実」はニーズが高いことが分かる。

問14 岩手の文化芸術を構築・振興するうえで、より望ましい将来像・理想像はどのようなものだと考えますか。  
(選択肢から3つまで選択)



「① 多くの県民が日常的に岩手の文化芸術に慣れ親しんでいる姿」、「⑩ 岩手の伝統的な文化芸術が受け継がれ発展していく姿」の回答割合が多くなっている。

<参考: 過去の調査結果との比較>

Q 岩手の文化芸術を構築・振興するうえで、より望ましい将来像・理想像はどのようなものだと考えますか。

選択肢	回答割合		増減
	令和元年度 (順位)	令和6年度 (順位)	
① 多くの県民が日常的に岩手の文化芸術に慣れ親しんでいる姿	19.7% (1)	19.2% (1)	-0.5% +0
② 全国的・世界的に有名な文化芸術の催し物が年に数回行われる姿	10.2% (5)	10.0% (4)	-0.2% +1
③ 地元密着型のアーティストが県内で活躍している姿	7.2% (7)	7.9% (7)	0.7% +0
④ 県出身者が著名なアーティストとして全国や世界で活躍している姿	9.3% (6)	9.4% (5)	0.1% +1
⑤ 地域独自の文化芸術が活発に行われている姿	11.6% (3)	11.4% (3)	-0.2% +0
⑥ 県外から入ってくる文化芸術が積極的に取り入れられている姿	2.6% (10)	2.8% (11)	0.2% -1
⑦ 青少年が文化芸術に触れ、創造性や感性が育まれている姿	10.7% (4)	9.2% (6)	-1.5% -2
⑧ 若者や女性が文化芸術に積極的に関わっている姿 H26のみ	4.9% (9)	4.4% (9)	-0.5% +0
⑨ 高齢者や障害者が文化芸術に積極的に関わっている姿	6.0% (8)	4.6% (8)	-1.4% +0
⑩ 岩手の伝統的な文化芸術が受け継がれ発展していく姿	16.2% (2)	16.8% (2)	0.6% +0
⑪ 新しい文化芸術を生み出し、発展させていく姿	1.4% (11)	4.4% (9)	3.0% +2
⑫ その他	0.0% (12)	0.0% (12)	0.0% +0
不明・無回答	0.0% (12)	0.0% (12)	0.0% +0

注 網掛けの数値は、令和元年度・令和6年度それぞれの年度における回答割合が、上位1位から3位までの選択肢であること。

令和元年度・令和6年度の両年度において、回答割合の上位3項目の順位に変動はない。  
このことから、より望ましい将来像・理想像は「岩手の各地域において、地域独自の・伝統的な文化芸術が活発に行われ、県民が慣れ親しみ、その文化芸術が着実に継承・発展している姿」であるものと考えられる。

○ 触れる機会・鑑賞の場の提供に関すること

- ・ 「触れる機会」が多くあるためには、その導入部分としての場所が必要である。
- ・ 子どもが小中学校の頃は地域の伝統舞踊活動に参加していたが、子どもが成人してからは、あまり触れることがなくなった。
- ・ アール・ブリュットという言葉は初めて知ったが、素晴らしい才能を皆に知ってもらうために県立美術館に常設展示すると良いと思う。
- ・ 博物館、美術館に行こうと思う人が少ないように思う。来館してもらえるような工夫や交通アクセスの改善を行い館に寄ってもらうことが(文化芸術への)興味につながると思う。
- ・ 岩手で生の芸術に触れる機会が少ないことは、地域性なので仕方がないが、若い人たちにも生の芸術に触れる機会が与えられれば良いと思う。地元の音楽家や劇団、伝統芸能や祭りなどに触れる機会があると良い。
- ・ (文化芸術活動に)参加してみたいと思っても参加しにくいところがあると思うので、体験できる機会を多く設けて欲しい。
- ・ アール・ブリュット展等について、岩手県内の市町村役場で巡回展示を検討してもらえれば、身体障害者や公共交通機関や車など移動手段がない人にも気軽に関心をもってもらえると思う。
- ・ 有名な著名なアーティストに接することによる刺激とともに地域に根付いた文化に慣れ親しむことの両輪あってこそ、若者から老人まで芸術に接することができると思う。
- ・ 文化芸術鑑賞の機会はあるものの入館料が高く躊躇してしまうことがある。年に何度か無料の日や高齢者割引があればうれしく思う。
- ・ 演劇や芸術などに触れる機会が小さい頃からは「文化的魅力」が何かわからないままだと思う。文化的なものに触れる機会もないと興味も持てないままとなるのではないかと。
- ・ 盛岡中心のイベント実施ではなく県内主要市町村でのイベント発信と実施で活躍している著名なアーティストの演奏を直に聴取する機会を設定して欲しい。

○ 文化芸術の継承に関すること

- ・ 聞き取り調査をしながら「今を残す」が大事だと思う。
- ・ 文化的魅力ある地域づくりにしても、文化芸術振興においても、その地域に人がいなければ継続も保存もできない。人がその地域で活動できる支えが大切と思う。つまり地域の人口減少問題をどう対策をとっていかにかかると思う。
- ・ 後継者の育成、保護活動に取り組み、発信を行う。
- ・ 伝統文化の継承と新しい文化芸術の両方に力を注いで、特に伝統芸能に関しては無くならない様に守らなければと思う。
- ・ 各々の地域で守られてきた伝統文化を絶やさないため、人的、金銭的援助を充実してほしい。
- ・ 地域の人が当たり前を受け継がれてきたものを廃れないように支援していくことや後継者につなげることで伝統文化を広げて欲しい。
- ・ 長年代々続いた伝統行事も後継者不足等から途絶えてしまうものがある。その行事の真髄は変えずに生かし、いかに伝承していけるかを考える必要がある。出来なくなったの理由で消滅させたくない。
- ・ 第一に少子化対策だと思う。
- ・ 伝統芸能は人口減少、少子化などにより継承が困難になっている団体も多い。せめて伝統芸能を継承、復活させる為に専門の動画の作成支援や収集が必要である。
- ・ 県内各地で受け継がれている文化(伝統芸能・食文化・祭り・風習・行事等)が担い手不足で、どんどん出来なくなっているように感じている。中には消滅してしまったものもある。少子高齢化が進行中の現在、映像などに残して、ライブラリー化することも必要だと思う。また、継承者の養成も、あわせて実施して欲しい。

○ 支援体制、方向性に関すること。

- ・ 一地域一文化芸術の発掘による市県全体の地域文化芸術の共有と発展を望む。
- ・ 少子高齢化(指導者不足、後継者不足)、活動不活発化(コロナ等の自然的制約、忙しい(仕事、学業等)等)を打破する施策の創出。
- ・ 文化芸術支援体制が充実していれば関わる人達も増えていくと思う。
- ・ 文化は幅が広く、好みも異なるので、なかなか難しいと思うが、市町村単位で、1つ以上、分野も問わず中心となるものを選出していけばと思う。
- ・ 文化を維持、継続するためにも、助成制度の充実、拡充を図るべきであると考えます。
- ・ 携わる人の育成と、継続的な支援そしてそれを発信していく仕組みづくりが欠かせないと思う。
- ・ 目には見えなくても良いと皆が思える地域活動に使えるので「ハコもの」も必要だが、伝統を守るには経済が必要だ。
- ・ 地域で伝統文化をやっている団体、人がいるが、これらの団体等が無くならないよう支援していくことが大事であると思う。
- ・ 文化芸術活動にはどうしても費用がかかり。活動資金が乏しければ見栄えもせず、どうしても新しい人材獲得には繋がらないし、宣伝・広報活動も限定的なものになると思う。文化芸術活動の促進には、資金面での援助が必要不可欠かと思う。

## ○ 文化芸術への意識について

- ・「文化で飯は食えない」という人が居るが、経済的な価値の創出ばかりでない、精神的な豊かさや潤いを与えてくれることがより重要だという視点で考えたいものだ。
- ・今はあまり注目されていない作品や文化、景観なども積極的に保護や保全に取り組んで欲しい。新しいものでも、伝統的なものでも、岩手で育っていく子供たちが誇れるものを残していったほしい。
- ・文化芸術などは特に、若者中心のカルチャーばかり取上げられて、ベテランの方(高齢者)や障がい者の中で優れた力を持つてるが表に出ないまま誰にも見つけられないままの、もったいない人が多い気がする。
- ・文化美術は心の栄養になりうと思う。
- ・芸術文化でも、地域郷土からなる歴史文化の上に新世代からなる文化の協同により、つながっていくものと思う。
- ・その土地ならではの物を失くさない、繋いで行くという住民の意識がある事。
- ・体験から、興味を持ち真剣に活動に参加しても、よそ者は排他する考えがあると残念ながら先に進めない。気のあった仲間だけのものになっている。

## ○ 幼少時からの文化芸術教育、学校教育の中での文化芸術活動に関する事

- ・(幼児から)あたえること・ふれることが大切
- ・子供達が楽しんで参加できる環境整備
- ・学校教育(青少年劇場のような活動)との連携
- ・岩手県には祭りで踊られてきた様々な踊りや見事な景勝地などの良い文化財がたくさんある。子供の頃から学校での授業でそれらを紹介して、興味があれば家庭で見に行ってもらえばいいと思う。アール・ブリュット(の展覧会)は学校の先生に引率してもらい子供たちが見に行くのも良いと思った。
- ・小さい頃(幼稚園、小学生)から触れあえる機会を作って欲しい。
- ・岩手県の文芸層は厚いと思う。俳句、短歌、川柳、詩、小説、随筆、どの分野も実力者が揃っている。高校生など若者に向けた県の文芸取り組みはすばらしくて、報道で見聞きするたびに感動している。子どもの頃から手軽に文芸に親しめる環境をお願いしたい。

## ○ 活動や発表機会の提供に関する事。

- ・練習(防音の部屋)・発表の機会などの場所の提供、楽器、調理装置などの道具の提供(が必要だと思う。)
- ・文化芸術活動の拠点となる施設減りつつある。まずは活動場所や発表場所が遠方になることは、活動の停滞に繋がるため活動場所等の確保が必須と考える。
- ・人気アーティストのライブには全国からファンが来るので、岩手でも出来るよう(音響の整うスタジアムライブ会場があると活性化できると思う。
- ・地域文化芸術振興に当たっては、既存の文化芸術団体(伝統芸能、絵画写真等その他各種サークル活動)が、日常的に利用しやすい公共施設(公民館、社会教育施設等)の貸出が必要と思う。同時に団体の広報活動、広報誌の発行成果の発表会等開催支援が必要と思われる。
- ・恒常的な文化芸術活動ができる場の設定が必要であると思う。

## ○ 人材育成、相談支援に関する事

- ・才能の発掘と担い手作り。
- ・若いうちから自身の地域や異文化などに対して興味を持てるような地域づくりと、テクニックも必要であるが、その作品の背景などを教えられる指導者が必要ではないかと考える。
- ・人づくりが大切であると思う。
- ・地域の指導者や支援体制の充実が必要であると思う。

## ○ 世代(後継者)育成・若者支援等に関する事

- ・少子高齢化により、県内各地の郷土芸能の担い手不足により後世まで伝承することが困難にあるところもあると思うので、その普及活動(体験学習等)が必要であると考え。
- ・中学校の部活動の地域移行の役員をしているが、民俗芸能の方達は受け皿としての意識が薄く、折角の後継者育成機会を逃しているように思う。文化の継承活動は中高生の情緒育成に繋がると思う。
- ・後継者育成と参加者を増やしていく活動が必要だと思う。
- ・伝統文化の後継者がどんどん少なくなっているため、あと何年かすると無くなってしまふものが相当出てくることを懸念している。特に、伝統芸能はどれも大変な状況だと思う。

## ○ 地域間格差について

- ・勉強はどこでも誰でも出来るが芸術に触れる機会は、地方は圧倒的に少ない。芸術に遠くに出向くこと無く低価格で触れる機会をいかに作っていくかが課題になってくると思う。
- ・交通が不便な地域においては芸術の鑑賞等、十分に楽しむことができない。県内で行われる様々な伝統行事や芸術等に関するものをTVやラジオで大いに宣伝をして放映して欲しい。
- ・文化芸術の鑑賞機会は県南に比べ県北は少ない。もっと増やしてもらいたい。
- ・昨年まで盛岡市に居住しており、コンサートや美術館、映画鑑賞等、興味を持った際にいつでも行ける環境だったが、転居後は気軽に参加できなくなった。現在住んでいる地域の方々も、地元の伝統的な文化芸術や高齢者向けのコンサートのみとなっている様子。若年者が少ない地域とはいえ、身近に文化芸術に触れ合える環境があれば、将来に繋がっていくのではないかと感じている。

## ○ 観光等関連分野との連携や地域振興について

- ・ 県内のいたる所に県内出身のアーティストの作品を置いてほしい。ファンが集まり、集客と地域の活性化が期待できると思う。
- ・ 美術館や博物館はオリジナリティを極端に強調した運営や展示をすすめ、武器を持つべきだと考える。広く薄い展示はリピートに繋がらない。
- ・ 文化施設に車で行く必要があるのが良くないと思う。地元民ならまだしも、県外民を呼びこむならアクセス(交通機関)を良くすべき。
- ・ 美術館的に色々楽しめる場所を作り、気軽に行き来が出来て、(観光客等が)岩手を応援し、(県民が)岩手を誇り好きになる流れ(が必要。)

## ○ 情報発信(提供)・PRに関すること

- ・ 広くマスメディア、広報誌は誰にでも届くので、芸術文化を観ることや思い出させてあげるような努力をしたほうが良いと思う。
- ・ 県内各施設の情報が一冊に又はリアルタイムで分かるホームページ(が必要。)
- ・ 岩手県には文化を発信する能力というのが無い気がする。北から南まで色々な文化があるのに、県外に発信されていることが少ない。

## ○ 文化財に関すること

- ・ 近年、異常気象に起因する自然災害が多くなり、県内の貴重な文化財や史跡を後世まで残すためには早急な修繕対応とその際、修繕等にかかる費用の補助制度を手厚くする必要があると考える。